

令和5年度 学校評価のまとめ

本校教育活動についての評価を公表します。学校教育目標『自ら学び続ける心豊かな子どもの育成』を実現するために、各目標がどの程度達成できたかを教職員が自己評価したものを学校運営協議会の皆様にご覧いただき、ご意見をいただきました。この関係者評価を来年度に活かしていきます。

A: 十分達成できた      B: おおむね達成できた      C: やや不十分であった      D: できなかった、

| 目標                                | No. | 評価項目   | 学校自己評価 |  | 関係者評価 |   |
|-----------------------------------|-----|--|--------|--|-------|---|
|                                   |     |  | 達成度    | 成果と課題  | 評価    |   |
| 学 校<br>教育目標                       | 1   | 目標を理解し、それに基づいた実践と学年目標・学級目標を設定した  | A      | ○学校教育目標を達成するための学級目標を設定し、折に触れ振り返ることで、児童も教師も意識して取組んでいる。<br>△全員が意識して取組めていないと感じることがある。   | A     | ・学校運営全般に熱心に取り組んでいる。<br>・具体的な数字で基準を示してはどうか。  |
| 基礎基本<br>の定着と<br>自ら学ぶ<br>力を育て<br>る | 2   | 基礎的・基本的な内容の習熟・徹底が図られ、朝の学習の時間を有効に活用できている  | A      | ○読書タイムやさわやかタイムは学校全体で継続して長年取組んできているので、本に親しんだり、しっかりと声を出して発言したりするなど成果が表れている。<br>△国語科として時数カウントをしている朝の学習は、計画的に有効に活用できているが振返ることが必要である。 | B     | ・朝学習の有効活用を継続されたい。<br>・積極的に図書ボランティアを活用して、朝読書の時間に各教室に入ってもらうことも可能である。<br>・読書習慣をつけるためには、親が本に親しんでいる姿を見せたり、家族で読書の時間を確保したりするような取組が必要である。 |
|                                   | 3   | 学習の決まりが定着し、自ら進んで課題に取り組む姿勢の育成に努めている   | B      | ○学習の決まりの定着には児童の個人差もあるので、引き続き継続した指導が必要であるが、おおむね定着しつつある。   |       |   |
|                                   | 4   | 普段から本に親しみ、読書の習慣が身につくように指導している  | B      | ○読書タイムを通じて読書をする習慣が身につくつつある。<br>△読書の幅を広げるために本を紹介するなどの機会を、国語科以外にも設けていきたい。  |       |   |
| 思いやり<br>の心を育て<br>る                | 5   | 授業時間を確保し指導計画に基づいて授業を行い、「心にひびく道徳」授業の実践に努めた  | B      | ○道徳カリキュラムに沿って、計画通り実施できている。<br>○道徳科の職員研修では活発な意見交流がみられ、教員の深い学びにつながったことが日々の道徳の授業に生かされている。   | B     | ・教職員の道徳授業の研修を、今後とも充実させていくことが大切である。<br>・価値の多様化への対応が必要である。<br>・「性」教育に対する取組が必要である。<br>（ジェンダーフリーへ）                                    |
|                                   | 6   | 自らの人権意識を磨き、自他の生命や人格を尊重し児童の自己肯定感の育成に努めている   | A      | ○友達を大切にし、優しい声かけをする児童が多い。<br>○人権参観授業が実施できた。また、「いじめ」を使って教材開発ができた。他に、保護者と一緒に人権について考える「親子道徳」は、見えないところで効果を生んでいると考えている。                |       | ・ネットトラブル防止に向けて、学校では授業等で指導を深めるとともに、家庭への呼びかけ等の啓発もしていく必要がある。   |
|                                   | 7   | いじめ・不登校・問題行動等の早期発見に努め、情報を共有し、組織的に対応している<br>アセスや心の相談アンケートを活用し、児童理解とよりよい学級経営を進めている | B      | ○協同的探究学習を通して積極的な発言ができることが、児童の自己肯定感の育成につながっている。<br>○個々に応じたきめ細やかな指導を心がけている。一人一人の課題を把握し、保護者の願いも聞きながら指導を行っている。                       |       | ・保護者向けのインターネットトラブル防止講座は大変有効なので、積極的に開催するべきである。しかし、教員が実施するのは負担が大きいのと思われるので、外部の専門講師を招聘するのも一つの方法である。                                  |
|                                   | 8   | インターネットトラブル防止やSNS利用のルールなどの情報モラル教育の推進   | B      | △自分優先の自己肯定感を身につけるようになってしまっていない配慮な部分がある。  |       |   |
|                                   | 9   | 学級経営や授業において、児童理解に努め、一人一人の教育的ニーズに応じた指導ができている                                      | A      | △ネットトラブル防止に、事後指導より予防指導を増やしていく。   |       |   |
|                                   | 10  | 特別活動では、児童が計画を立てて、主体的に活動できるように指導・育成した   | B      | △早い時期にインターネットトラブル防止講座を実施する。<br>△もっと活発に、もっと児童が中心となって活動できる特別活動にしていけないか考えていくことが課題のひとつである。   |       |   |
| たくましい<br>体を育て<br>る                | 11  | 運動量を確保しめあてをもって学習させ、主体的に運動に親しめるように働きかけている   | A      | ○健康の自己管理ができるように、保健目標をもとに計画的に指導してきた。<br>△健康の自己管理できていない児童が多いように感じられる。  | A     | ・体育科の指導技術の研修を全職員に向けて実施しているのは良い。   |
|                                   | 12  | 健康の自己管理ができるように保健目標をもとに計画的に指導している   | B      | ○自分たちで課題を見つけ練習に取り組めるように努力した。<br>△活動ありきではなく、めあてを意識させて、そのめあてに対する評価ができるようにすることが課題である。   |       | ・フラッグフットボール等の新しい種目を取り入れ、実施できている。  |
|                                   | 13  | 栄養・偏食・マナー等、食に関する指導の充実が図れている  | A      | ○食育の学習が効果的に行われており、残食も少ない。<br>△保護者との食育指導の共通理解が必要である。  |       | ・休み時間に子ども達が伸び伸びと遊んでいる姿を通して、学校の日頃の様子を感じることがができる。   |
| 安心安全<br>な学校づくり                    | 14  | 事件・災害に対する防犯・防災教育や体制づくりができている   | A      | ○避難訓練が実施できるようになり、子どもたちが災害等を意識した訓練ができるようになった。   | B     | ・スクリレ等で情報発信ができている<br>・地域でも防災への取組を熱心に進めてきている。  |
|                                   | 15  | 感染症や熱中症、また安全対策等における適切な対応やマニュアルに基づいた対策ができている                                      | B      | ○避難訓練や事前・事後指導で防災意識が高まっている。<br>○安全点検を一か月に一回行う等、安全対策が講じられている。  |       | ・ゲーム形式（カード等を使って）で、災害時に具体的にどう動いたらよいかな等を体験する時間が、学校だけでなく、児童、保護者、地域で取組めたらよいと感じる。  |
|                                   | 16  | 地域とともにある学校づくりに向けて、地域・保護者との連携が図られている（学校・学年便り、HP、スクリレでの通知の配信等）                     | B      | ○スクリレやホームページ等を利用し、よく発信してきた。<br>○学校生活の様子を伝えることができた。更にホームページの投稿頻度を上げられるようにしていきたい。  |       | ・毎月発行の「学校だより」を楽しみにしている。   |
|                                   | 17  | 保護者や地域からの相談や要望に、適切に対応できている   | A      | △更に、地域との連携、地域を巻き込んでいくには、どうしていったらいいかを考えていきたい。   |       | ・更なる地域との連携のあり方に一考の余地あり。   |
|                                   | 18  | 施設設備の維持管理を教職員で協力して取り組んでいる。（使用ルール、安全点検等）  | A      | ○月1回の全校校内清掃は愛校心を産むとともに、児童と教職員が一緒に清掃活動に参加できることがとても良かった。   |       | ・トイレ掃除が必要なら、手伝ってくれる人を探して協力できます。   |
|                                   | 19  | 校舎内・外は美しく整備され、子どもたちへの指導も適切である  | B      | △清掃時間の指導が十分でない場所がある。特に、トイレ掃除に業者を入れられないか検討している。   |       |   |
| 働き方改革                             | 20  | 記録簿を活用して勤務時間の適正化に努め、超過勤務を減らし、業務のスリム化を目指している                                      | C      | △勤務時間の適正化に努めているが、個人の努力では限度があると感じる。学校全体として削減できるものは削減していく必要がある。  | C     | ・時程の改善を検討しているのは良い。<br>・教職員の勤務時間を発信してはどうか。<br>・トイレ掃除ボランティアを募集してはどうか。   |
| 教職員の<br>研修                        | 21  | 協同的探究学習を取り入れた授業改善と学力向上の取り組みが充実している   | A      | ○協同的探究学習での「わかる学力」の育成に力を注いできた。自分の意見を書ける児童が増えた。  | A     | ・研究指定を受け取り組んだことを継続しており、学力向上に期待する。   |
|                                   | 22  | 実践的指導力の向上を図る研修が実施され教職員が高め合う組織的な研修が推進されている  | A      | △学力向上と結びついていないところは見直し、「できる学力」と学びに向かっていく主体性を育てていく必要がある。<br>○体育科の研修、道徳科の研修等 教職員からの希望で開催し、効果的であった。                                  |       | ・若手教員の育成に向けて様々な研修を実施し、その育成にあたっているのは良い   |
| 英語教育<br>の充実                       | 23  | A L Tを活用し、英語力を育成する指導を進めている   | A      | ○外国語に触れる機会があり、外国語の学習に関心が高まった。<br>△クラスでの関りや担任の関りも増やしていけたらと感じる。  | B     | ・今の海外校との交流は良い刺激になるはず。<br>・ICT活用を進めてみてはどうか。  |
| 情報教育<br>の推進                       | 24  | 活用方法の研修を進め、授業改善に生かし、教育効果が上がるよう努めている  | C      | ○必要に応じて取り入れることができている。<br>△ICTの利用が目的になっていない。研修も必要である。   | B     | ・学校全体としての取組が必要である。<br>・毎日持ち帰らなくてもいいものではない。  |